

横浜環状北線トラス橋

Yokohama Circular Northwestern Route Truss bridge

本橋梁は、横浜市交通ネットワークの一部を担う横浜環状道路の北側区間に建設された単純ダブルデッキ鋼床版トラス橋です。架橋地点は鶴見川・大熊川・江川の3つの河川が合流する箇所、河川断面への影響及び堤防法部に生息する希少生物への影響を最小限とする必要がありました。このため、構造的・景観性・施工性・経済性の観点から、最も優れる形式として橋長158mの単純鋼トラス橋を採用しました。単純ダブルデッキ形式の鋼トラス橋としては、日本国内最大の支間長を有する橋梁です。また、本橋梁区間は上下車線を2層構造としています。近接するトンネル区間では平行区間に車線が移行するため、トラス弦材は主構間隔が拡幅していく特殊な構造となっていることも特徴です。

橋種(活荷重)	道路橋(B活荷重)
構造形式	(上部構造)単径間鋼床版ダブルデッキトラス橋 (下部構造)RC橋脚2基(ケーソン基礎1基、杭基礎1基)
橋長	158.0m
施工法	送り出し架設
所在地	神奈川県横浜市
発注者	首都高速道路(株)神奈川建設局
完成年	2014年
平成27年度	土木学会田中賞 作品部門受賞作品



横浜環状北線トラス橋

断面図

